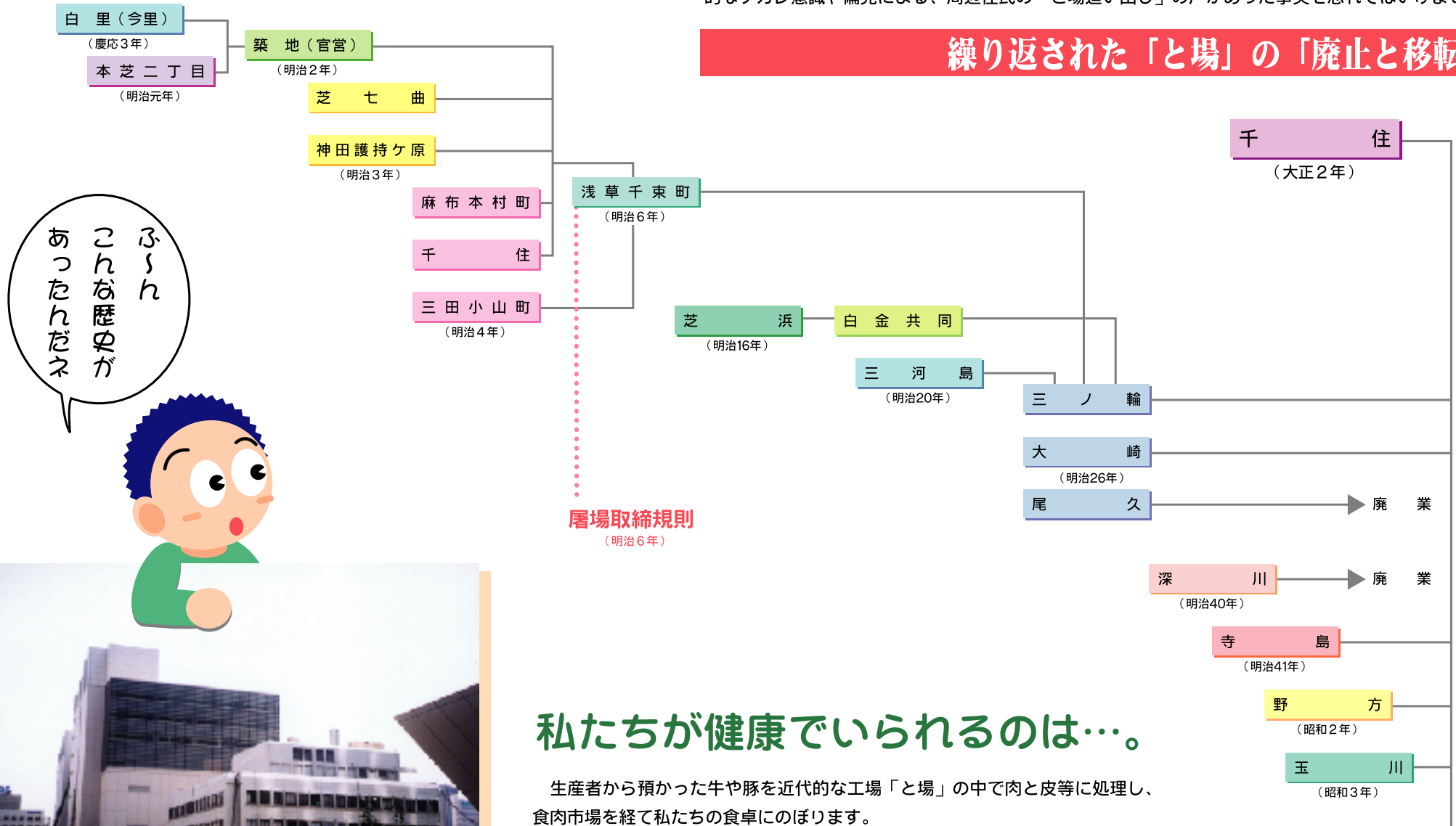


芝浦と場発足までの変遷と役割

芝浦と場が、この地に落ち着くまでには、下図に示すようにさまざまな「と場」が「廃止や移転」をくり返してきた歴史がありました。

「と場」が何度も「廃止や移転」を余儀なくされた理由のひとつに「刑務所や火葬場より、心を痛めさせると殺場の建物を見て暮らすことに耐えられない。」「物心両面の実害が甚大である。」など、差別的なケガレ意識や偏見による、周辺住民の「と場追い出し」の声があった事実を忘れてはいけません。

繰り返された「と場」の「廃止と移転」



東京都中央卸売市場 食肉市場（芝浦と場 2002年10月現在）

私たちが健康でいられるのは…。

生産者から預かった牛や豚を近代的な工場「と場」の中で肉と皮等に処理し、食肉市場を経て私たちの食卓にのぼります。

品川駅東口にある芝浦と場（東京都中央卸売市場 食肉市場）は、発足当時、葦の茂る埋立地に開設されましたが、街の発展、食肉消費量の増大と共に現在、日本一の処理生産量を誇る「と場」となっています。

東京市立芝浦と場

（昭和11年開業）